科目No. 1	配当時期	担当者
科目名　学びのステップ 時間割表記名　学びのステップ	単位数　1年次前期 時間数　1単位 30時間（15回）	にいやま　ともき 新山　智基

科目のねらい

アカデミックスキルの基本的な学び方を習得する

授業目標

1.高等教育としての学びを理解することができる
2.アカデミックスキルを身につけることができる

ディプロマ・ポリシーとの関連	
○	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

1．学ぶということ
　「生徒」から「学生」へ　、「勉強」と「学問」
2．「読む」能力を高める
　リーディング・スキル　（テキストを読むということ、深く読むためのスキル）
3・4・5・6・7．「書く・まとめる」能力を高める
　ノート・テイキングのスキル
　レポート作成の基礎
　論理的思考の基礎
8・9 「調べる・整理する」能力を高める
　図書室における情報収集、インターネットによる情報収集
10・11・12.「パソコンによるライディング・スキル」を高める
　ワード、エクセル、パワーポイント、メール
13・14. 「話す・表現する・伝える」能力を高める
　話すとは、プレゼンテーション
　プレゼンテーション
15．まとめ

受講上の注意

個人やグループワークでの学習がメインとなるため、自ら積極的な学習姿勢を望む。

評価方法

授業への参加度、授業中の課題、グループワークでの成果物、最終レポートによって総合的に評価する。

使用するeテキスト

使用するテキスト

授業の状況に応じて、講師より資料やプリント等を配布する。

参考となるeテキスト

看護情報学

参考文献

科目No. 2		配当時期	担当者
科目名	自然科学Ⅰ	1年次前期 単位数 1単位	化学 有本(ありもと) 淳一(じゅんいち)
時間割表記名	自然科学Ⅰ 化学 自然科学Ⅰ 生物	時間数 30時間(15回)	生物 西沢(にしざわ) いづみ

科目のねらい

自然現象、生命現象の原理・法則から解剖生理学へとつながる知識を学ぶ

授業目標

専門分野を学ぶ上での基礎を確立する

化学
- ・科学的な思考法、判断力を身につける
- ・高校までの化学の基礎を復習し、身につける
- ・生命現象とは化学反応の連続であると認識する

生物
- ・生命現象および生命現象の場「細胞」についての基礎的な知識を理解する
- ・ヒトも自然が産み出した生物の一員であることをあらためて認識する

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)

化学

1. 「もの」は何でできているの？
   - ・原子の構造、電子配置、イオンと周期表、原子の安定性と価電子
2. 「もの」の量はどう表す？
   - ・原子量・分子量、モル、濃度
3. 放射能はなぜからだに悪い？
   - ・放射線、放射線の人体への影響と医療における利用
4. 「もの」の成り立ち
   - ・原子の結合、分子の結合、化学反応
5. からだのなかの「水」
   - ・からだの中の液体、イオンと電解質、浸透現象、酸と塩基
6. からだは何からできているの？
   - ・有機化合物とその分類、生体高分子の構造と性質　※上記１～６の内容を８回かけて講義します

生物

1. 生物最小機能単位ー細胞（1章）
   - ・細胞という劇場　・細胞膜の働き
2. 体液のしくみと働き(2章)
   - ・浸透圧　・電解質
3. 血管系とリンパ系(12章)
   - ・浸透圧を中心に
4. 遺伝D情報を担うDNA(3章)
   - ・遺伝子とは何か・DNAの構造とタンパク質の合成
5. 細胞分裂(3章)
   - ・体細胞分裂と減数分裂
6. 遺伝と遺伝性疾患のしくみ(4章)　※進度により、6・7回目はフィールドワークになる場合があります
   - ・形質と遺伝・遺伝性疾患
7. 総復習（プリント）

受講上の注意

化学　講義を受けているだけでは身につきません。自宅での学習が非常に重要です。
毎回、予習と復習のワークシートを課題として出します。しっかり取り組んでください。

生物　あなたの人間に対する興味、知ろうとする意欲を持参してください

評価方法

化学50点 筆記試験、提出物等

生物50点 筆記試験

使用するeテキスト

看護系で役立つ化学の基本（化学同人）
看護系で役立つ生物の基本（化学同人）
理科・計算・国語・社会の復習ワークブック＆ドリル（医学書院）

使用するテキスト

参考となるeテキスト

化学
生物学

参考文献

左巻健男編著、新しい高校化学の教科書、講談社ブルーバックス、2006
高松正勝著・鈴木みそ画、マンガ　化学式に強くなる、講談社ブルーバックス、2001

科目No. 5	配当時期	担当者
科目名　法学 時間割表記名　法学	1年次前期 単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	こまちたかゆき 小町 崇幸

科目のねらい

人の暮らしを守る法律の基礎、法解釈を学ぶ

授業目標

「現代社会で生じている問題」への法的な対応策について、基本的な知識を整理・理解することと、法的なものの見方と論理的思考能力、そして推論力を養うことを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

1回 ガイダンス ― 講義の進め方
2回 憲法とは何か？ ― 憲法の意義と立憲主義
3回 憲法の中味 ― 統治の仕組みと人権の保障
4回 人権の保障（1） ― 人権の定義と性質／個人主義
5回 人権の保障（2） ― 自由の大切さ
6回 人権の保障（3） ― 平等の大切さ
7回 看護と法 ― 刑事上・民事上の責任
8回 民事上の責任 ― 損害賠償責任
9回 看護師の過失 ― 裁判例を通して
10回 個人情報の取り扱い ― 個人情報保護・インフォームドコンセント
11回 看護と労働法 ― 労働法制
12回 医療と人権の保障 ― 安楽死・尊厳死
13回 生存権と生活保護制度（1） ― 生存権保障の意味
14回 生存権と生活保護制度（2） ― 様々な生活保護
15回 まとめ ― 法制度を概観して

受講上の注意

評価方法

筆記試験　60点
レポート　20点
平常点　20点

使用するeテキスト

参考となるeテキスト

看護関係法令

使用するテキスト

野﨑和義・柳井圭子著『看護のための法学』（ミネルヴァ書房）

参考文献

その他の参考文献は、適宜、紹介します。
必要に応じて、補足資料（プリント）を配布します。

科目No. 6	配当時期	担当者
科目名　生活科学 時間割表記名　生活科学	1年次前期 単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	あぜにし　まみ 畦西　真美

科目のねらい

人間の生活を環境との相互作用から理解し、快適な生活環境を想像する力を培う

授業目標

最近の急速な科学・技術の進歩によって、身近な衣・食・住についても、ますます高度な知識が必要となっている。多様化する日常生活において、健康で快適な生活を実践するために、どのようにすればよいかを考えることを目標とする。また、身近な問題として、日常生活に生かすことができる知識に関して理解を深め、私たちが直面する問題と今後の課題についても考えられるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

授業は講義を主とするが、テーマによって演習授業とする。教材は、テキスト・プリント・パソコンなどを適宜使用する。

	学習内容	学習成果
第１回	オリエンテーション 生活科学とは	健康で快適な生活を送るために、身近な衣・食・住について具体的な問題を対象とする。また、エネルギー資源、地球温暖化、食料不足等の私たちが直面する問題について考える。
第２回	暮らしの中の栄養学	体に必要な栄養素、適正エネルギー量、バランスのよい食事を考える。
第３回	身体活動とエネルギー	１日の基礎代謝量および身体活動量や生体リズムと食事について考える。
第４回	ライフサイクルと栄養（1）	年代別（妊娠期、乳幼児期、学童期）の栄養と食事について考える。
第５回	ライフサイクルと栄養（2）	年代別（成人期、高齢期）の栄養と食事について考える。
第６回	栄養素の基礎知識	五大栄養素である炭水化物、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラルの働きや食品との関係について理解する。
第７回	暮らしの中の防災	日常生活における防災意識を高め、安全な環境を理解する。
第８回	衣服と生活	衣服機能および管理について理解する。
第９回	住まいと生活	健康的で安全である快適な住まい環境を理解する。
第10回	日本の衣・食・住に関する伝統文化	日本の気候、風土を生かした工夫や地域の歴史について理解する。
第11回	私たちが直面する問題と今後の課題 1	直面する問題を整理し、今後の課題の解決方法を考える。（発表形式）
第12回	私たちが直面する問題と今後の課題 2	直面する問題を整理し、今後の課題の解決方法を考える。（発表形式）
第13回	私たちが直面する問題と今後の課題 3	直面する問題を整理し、今後の課題の解決方法を考える。（発表形式）
第14回	先人の知恵に学ぶ（1）	昔の人が、生活の中で実践した優れた技術や考え方を学ぶ。
第15回	先人の知恵に学ぶ（2）	先人の知恵や込められた願いを知り、現代の日常生活に生かす方法を考える。

受講上の注意

予習としてテキストを熟読しておくこと。
配布されたプリントは整理して、講義に持参すること。

評価方法

筆記試験：70点
授業受講態度：10点
課題提出：20点

使用するeテキスト

参考となるeテキスト

使用するテキスト

栄養の基本がわかる図解辞典　成美堂出版
プリントを配布します

参考文献

適宜紹介します

科目No. 7	配当時期	担当者
科目名　人間と社会 時間割表記名　人間と社会	1年次後期 単位数　1単位 時間数　30時間（15回）	たなか　れいこ 田中　励子

科目のねらい

社会現象のメカニズムから社会の構造や社会変動を学ぶ

授業目標

Ⅰ　現代社会の現状について知り、社会のしくみを学ぶ
Ⅱ　ダイバーシティにおけるコミュニケーションについて考える

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

Ⅰ　社会の現状

1	授業計画の説明	
2	子どもの健康と体力	子どもの体力低下の現状を知る
3	体格と体力	自分の体力をチェックしてみよう　実習
4	遊びからみる社会構造の変容	世代毎に子ども時代の遊びを調査　事前学習
5	少子高齢社会	人口動態から分析する
6	人口減少時代	経済的視点から考える
7	少子化と高齢化の問題点	
8	日本の貧困	ヒューマニティについて考える　事後学習
9	家族の機能と領域	ジェンダーの視点から考える

Ⅱ　社会環境の問題点

１０	大人文化と子ども文化のボーダーレス化	
１１	社会的相互作用	社会的役割を考える
１２	アイデンティティと社会化	ディズニーやセサミストリートのキャラクター分析　事前学習
１３	多様性プログラム	違い探しゲーム　ＧＷ
１４	ダイバーシティ	他者と共生する社会とは
１５	筆記試験とまとめ	

受講上の注意

積極的な発言や意見を期待します。
他の受講生との活発な話し合いも望みます。
事前に与えた課題を必ず検討してください。

評価方法

筆記試験：60%
※授業内で実施します
提出物：20%
授業への積極的な取り組み姿勢：20%

使用するeテキスト

使用するテキスト
適宜、資料を配付します

参考となるeテキスト
社会学

参考文献
『ビデオで社会学しませんか』山中速人ほか、 有斐閣
『漫画原論』四方田犬彦、筑摩書房

科目No. 8		配当時期	担当者
科目名	心理学	1年次前期 単位数 1単位	いながき きみとし 稲垣 公利
時間割表記名	心理学	時間数 30時間（15回）	

ディプロマ・ポリシーとの関連	
○	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

科目のねらい

心理学の基本的な知識や考え方を学び、自分自身を含めた人間の行動について学ぶ。また、人間の特性を捉え、成長発達各期にわたる人を理解し、人間関係構築の基礎力を培う

授業目標

1. 心理学の基礎的内容を理解する
2. 生涯発達心理学の観点から、赤ちゃんから老年期までの各年代における人間の発達と適応その諸問題について理解する。
3. 集団（グループ）について理解し、様々なグループワークを体験し、実践へつなげる。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

＜全体のスケジュール（回数）と学習内容＞

回数	学習内容	
第１回	心理学とは	
第２回	感覚と知覚、記憶	
第３回	思考・言語・知能、学習	
第４回	感情と動機づけ、性格とパーソナリティ	
第５回	社会と集団	
第６回	発達	発達心理学の基礎、発達心理学の理論
第７回		乳児期の発達
第８回		幼児期（前期）の発達
第９回		幼児期（後期）の発達
第１０回		児童期の発達
第１１回		青年期の発達
第１２回		成人期の発達
第１３回		中年期の発達
第１４回		老年期の発達
第１５回	まとめ	

＜学習成果＞

心理学の基礎的内容を理解し、身近な体験や観察を通して関心をもって理解できる。
人間の一生（ライフサイクル）を理解し、生涯発達についての諸理論と現代社会における諸問題について知る。
心理学を学ぶことによって、自己理解・他者理解を深めるきっかけになることを期待しています。
また、集団（グループ）に見られる力動についての理解を深め、
実際の援助にどう役立てるのかを、グループワークを体験しながら身につけていきます。

受講上の注意

評価方法

使用するeテキスト

心理学

使用するテキスト

参考となるeテキスト

人間関係論

参考文献

科目No. 9	配当時期	担当者
科目名　教育学 時間割表記名　教育学	1年次後期 単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	てらかわ　なおき 寺川　直樹

科目のねらい
教育の概念・目的を利用し、教育の理論的基礎を学ぶ

授業目標

・教育や学校についての基本的な概念や言葉について理解できるようになる。
・生涯学習など、学校教育以外の教育についても理解できるようになる。
・学問的・科学的な思考法や判断力を身につけ、主体的に活用できるようになる。
・看護師として働く際に必要な教育的資質を培う。

ディプロマ・ポリシーとの関連	
○	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

第１回　社会の中の教育と看護／教育とはなにか―「教育」の概念（教科書：第1部第1, 2章）
　1. 社会・文化・人間形成　2. 機能化された社会における教育と看護　3. 日常用語としての教育　他
第２回　教育とはなにか―「教育」の概念／教育の対象―子ども観と発達（教科書：第1部第2, 3章）
　1. 子どもを価値とする〈教育〉　2. 発達という見方　3. 権利主体としての子ども
第３回　社会変動と教育／教育の組織化―学校（教科書：第1部第4, 5章）
　1. 大衆社会の成立と変容　2. 大衆消費社会と情報化社会　3. 学校の役割と機能　他
第４回　教授―人を教えるということ（教科書：第2部第1章）
　1. コミュニケーションとしての教えること―看護との比較　2. 学ぶ・教えるということ　3. 省察　他
第５回　訓育―他者とのかかわりを導く（教科書：第2部第2章）
　1. かかわり合うことの困難　2. 訓育とはなにか　3. かかわりを導く技法　他
第６回　養護―教育の受け手を見まもる（教科書：第2部第3章）
　1. 養護とは　2. 学校における養育の機能　3. 学校における養護の過程　他
第７回　発達―教育を受けて成長する（教科書：第2部第4章）
　1. 発達を支える・促す　2.「教育による発達」の理論　3. 発達における身体と感情　他
第８回　学びの場―家庭と学校（教科書：第3部第1章）
　1. 学びの場＝学校という規範　2. 家庭と学校の関係　3. 学校に通うという意味の変化　他
第９回　教育の目標と評価（第3部第2章）
　1. 評価と目標の関係　2. 現在の目標・評価論　3. パフォーマンス評価　他
第10回　教育のメディア―教育をデザインする／教育の場をつくるしくみ（第3部第3, 5章）
　1. メディアと教育　2. メディアとしての教師　3. 教育政策のあり方を誰が決めるのか　他
第11回　教育の担い手―専門性と専門職性（第3部第4章）
　1.「専門職」としての学校教員　2. 教師の仕事の特質　3. 現代教育改革と学校教員　他
第12回　キャリア教育（専門教育）（第4部第1章）
　1. 変貌する若者のキャリア　2. キャリア教育にできること　3. これからのキャリア教育　他
第13回　ジェンダーとセクシュアリティ（第4部第2章）
　1. ジェンダー・セクシュアリティとはなにか　2. ジェンダーと教育の課題　3. セクシュアリティと教育の課題　他
第14回　特別ニーズ教育・インクルーシブ教育（第4部第3章）
　1. 障がい・看護・教育　2. 特別教育・インクルーシブ教育とはなにか　3. 障がいにどう向き合うか　他
第15回　生涯学習／シティズンシップ教育（第4部第4, 5章）
　1. 生涯学習の必要性　2. 成人はどこで学ぶのか　3. シティズンシップ教育とはなにか　他

受講上の注意
・予習としてテキストを読み、疑問点等を明確にしておくこと。
・授業内で実施するディスカッションおよび章レポートに積極的に取り組むこと。

評価方法
・授業内小レポート　30点
・論述試験　70点

使用するeテキスト
教育学

使用するテキスト

参考となるeテキスト

参考文献

科目No. 10	配当時期	担当者
科目名　文化人類学 時間割表記名　文化人類学	1年次後期 単位数　1単位 時間数　30時間(15回)	なかたに かずと 中谷和人

科目のねらい

"人"を社会・文化の側面から理解する能力を培う

授業目標

文化人類学の基本的な方法と知見を具体的な事例とともに学ぶことで、自他の世界の当たり前を疑い、それをより深いところから捉え直す批判的視野の獲得をめざします。また、この学びを身近な体験やできごとと関連付けて、自分の言葉で人に説明できるようになることを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関連	
○	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

1．イントロダクション―なぜ文化人類学を学ぶのか
2．贈与がつくる社会関係―マリノフスキとクラ
3．野生のナヴィゲーション―イヌイットにおける旅と動物に「なる」こと
4．レヴィ＝ストロースの思想(1)―構造主義の考え方
5．レヴィ＝ストロースの思想(2)―神話とブリコラージュ
6．文化批判の時代へ―誰が文化を語る権利を持つのか
7．前半のまとめ
8．生命を人類学で考える(1)―アニミズムと「心」の問題
9．生命を人類学で考える(2)―動きが生命をつくる
10．医療を人類学で考える(1)―病いと疾患
11．医療を人類学で考える(2)―病むことの経験とケアの実践
12．芸術を人類学で考える(1)―誰がアール・ブリュットを語るのか
13．芸術を人類学で考える(2)―芸術の生態学に向かって
14．芸術を人類学で考える(3)―線が物語る生
15．全体のまとめ

受講上の注意

評価方法

期末レポート（70%）
授業への積極参加（30%）

使用するeテキスト

参考となるeテキスト

文化人類学

使用するテキスト

配布資料、パワーポイント、DVDなど。

参考文献

授業のなかで適宜指示します。

科目No. 11	配当時期	担当者
科目名　人間関係論 時間割表記名　人間関係論	1年次前期 単位数 1単位 時間数 20時間（10回）	たむら　こういち 田村　紘一

科目のねらい

社会で必要な人間関係（個人のコミュニケーションと組織でのコミュニケーション）について学ぶ

ディプロマ・ポリシーとの関連	
○	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業目標

1. よりよい人間関係を構築するための基礎的な知識やスキルを修得し、日常に応用できる
2. 人間関係の諸相を理解し、説明できる。
3. 対人援助における人間関係を理解し、演習での体験学習に適用できる。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習内容	方法	学習成果
第1回 第2回	人間関係の基礎知識 -人間の悩みは、すべて対人関係の悩みである-	講義 GW	人間関係の意義、基礎的理論
第3回	自分と他者のコミュニケーションにおける諸問題	講義 GW	傾聴・受容をベースとした適切なコミュニケーションの技法を学ぶ
第4回	Z世代の理解と人間関係	講義 GW	Z世代の価値観や考え方を理解し、異世代同士の円滑なコミュニケーション、人間関係の構築をはかる
第5回 第6回	SNSと人間関係	講義 GW	SNSの影響により人間関係やコミュニケーションにどのように影響を与えたかを事例を通して学習していく。
第7回	個人と集団の人間関係	講義 GW	個人と集団における人間関係の違いを学び、人間関係の全体像を理解する
第8回	認知症患者の理解と関係づくり	講義 GW	認知症の患者や家族との関係性づくりや心理的ケアを学ぶ
第9回 第10回	コミュニケーションスキル ーより良い人間関係を築くために—	講義 GW	アサーションやコーチングなど対人スキルの技法を学ぶ

受講上の注意

本授業は演習等で学生の主体的な学習活動によるものです。
本授業で学んだことを日常生活の中で意識し考えながら応用してください。
日常生活で活用できるスキルです。看護の土台として成長・発展していけるようお願いします。

評価方法

課題点　100点
出席点＋レスポンスシート　10点
レポート課題 90点

使用するeテキスト

人間関係論（医学書院）
基礎からわかる人間関係論（南山堂）

使用するテキスト

参考となるeテキスト

参考文献

適宜提示

科目No. 14	配当時期	担当者
科目名　芸術と創造	1年次全期	坂口（さかぐち）　みゆき
時間割表記名　芸術と創造	単位数　1単位	
	時間数　20時間（10回）	

ディプロマ・ポリシーとの関連	
○	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

科目のねらい

人間の心身の相関について認識を深め、感性、創造力を培う

授業目標

創造することと内的成長のつながりについて理解する。
創作体験を通して，自分に内在する創造力や成長する力に気づく。
他者のアートに触れる中で，自らの感性を高めると同時に，人の在り方の多様性に気づく（自分と他者の違いを認め，尊重する）。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

1. 芸術(アート)とは何か
   アートとは何か考えながら，看護学科で「芸術と創造」を学ぶ意義を考える。
2. 芸術(アート)を体験する心（感性）
   「心の機能」について，深層心理学の考え方を学び，心がどのようにアートを体験するのかを考える。
3. 創造することと内的成長
   看護師として，そして人として，内面を成長させていく重要性を学ぶと同時に，内的成長と創造することにどのようなつながりがあるのかを考える。
4. 創造の体験
   芸術行為を体験する。また，その体験を通して自分の心をのぞいてみる。
5. あなたのアートを創造しよう①
   アートには様々な形があることを確認しながら，何を創造しようかいろいろと考えてみる。
6. あなたのアートを創造しよう②
   「創造ノート」を使って，何をつくるか具体的に考える。
7. 中間報告会
   あなたのアートの進捗状況をクラスメートと共有する。他者のアイデアや取り組みから刺激を受ける。
8. 発表会の準備をする（中間発表会の予備日）
   9～10回目で実施する発表会（展示会）の説明を受け，準備をする。

9.10. アート発表会（展示会）
   各自創造したアートを展示し，互いに鑑賞しあう。様々な（異なる）表現に出会う中で，自分自身のことも他者のことも尊重する。

受講上の注意

作品の上手さを評価する授業ではありません。創造する体験を通して，自分への理解を深めたり，他者の在り方を認めたりできるといいと思います。図画工作や美術が苦手だった人は，そのことはいったん横に置いて，自分の中に内在する創造性を信頼してみてください。あなたもきっと小さい頃，わくわくしながら描いたり，切ったり，貼ったりしていたと思います。そんな気持ちを思い出してみてくださいね。

評価方法

出席・授業態度
創造ノート（創作プロセスの記録）
成果物
レポート

使用するeテキスト	使用するテキスト
参考となるeテキスト	参考文献

科目No. 16	配当時期	担当者
科目名　解剖生理学Ⅰ 生命　神経系	1年次前期	生命　西沢（にしざわ） いづみ
時間割表記名　解Ⅰ　生命 解Ⅰ　神経系	単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	神経系　中澤（なかざわ） 拓（たくや）也

科目のねらい

人体を構成する各器官の基本的な構造（形態）と機能を学ぶ

授業目標

生命　高校生物程度の内容、生体の構造と機能を広く確認する
神経系　神経系の構造と機能、脳脊髄神経の高次機能を理解する

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

生命　5回　担当：西沢

	回	学習内容	学習成果	テキスト
生命	1	生命の起源　人体	生命の起源について知り、我々の存在について理解する	
	2	細胞を構成する物質・ 分化した細胞がつくる組織と器官	細胞の構造と構成する物質の理解 上皮、結合、筋、神経、４種類の働きを理解する	
	3	細胞分裂、生殖細胞と受精	減数分裂による生殖細胞の生成	
	4・5	初期発生・着床・胚葉の分化と胎児の発生	受精から胚葉形成・臓器形成の発生を理解する	
神経系　10回　担当：中澤				
神経系	1	ニューロンとグリア 興奮の伝導　跳躍伝導	神経系の細胞、伝導の構造と機能を理解する	
	2	シナプスと神経伝達物質	シナプスを介するシグナルの伝達について理解する	
	3	神経伝達物質と我々の脳	神経伝達物質の種類、モノアミンについて知る	
	4	中枢神経と末梢神経 自律神経	末梢神経のうち自律神経の構造と機能を理解する	
	5	神経系の発生 脳・脊髄の構造と機能	神経系の発生、脳、脊髄の役割分担を知る	
	6	大脳の機能局在（１）	大脳の機能分担を理解する	
	7	大脳の機能局在（２）神経伝達路	運動神経と感覚神経、中枢と末梢の伝達路を知る	
	8	脳室、髄膜、脊髄神経、脳神経	脳室、髄膜、脊髄神経、脳神経を知る	
	9	脳波と睡眠 記憶	脳波と睡眠の役割を知る 記憶について知る	
	10	本能、情動行動 植物状態と脳死	本能、情動行動を支配する辺縁系を知る 脳死を理解する	

受講上の注意

評価方法
筆記試験
（生命30点、神経系70点）

使用するeテキスト
解剖生理学

使用するテキスト

参考となるeテキスト
脳・神経
看護学生スタディガイド

参考文献

科目No. 17	配当時期	担当者
科目名　解剖生理学Ⅱ 呼吸器系　循環器系 時間割表記名　解Ⅱ呼吸器系　循環器系	1年次前期 単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	呼吸器系　堺　真奈美 循環器系　山本　絵奈

科目のねらい

人体を構成する各器官の基本的な構造（形態）と機能を学ぶ

授業目標

呼吸器系　呼吸器の解剖と機能を系統立てて理解することができる
循環器系　循環器の解剖と機能を系統立てて理解することができる

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

	回	学習内容	学習成果	テキスト他
呼吸器系（堺）	1	呼吸器系の構造 換気・内呼吸・外呼吸・ガス交換	呼吸器系の全体的な構造が理解できる 呼吸器の機能が理解できる	ワークシート スタディガイド eテキスト
	2	気道の構造と機能	気道の構造と機能が理解できる	
	3	肺の構造と機能	肺の構造と機能が理解できる	
	4	呼吸中枢と呼吸運動	呼吸中枢が理解できる 呼吸運動とその調節について理解できる	
	5	呼吸機能検査と呼吸器系の知識	呼吸機能検査が理解できる 閉塞性換気障害と拘束性換気障害が理解できる	
	6	看護に必要な呼吸器の知識	看護に必要な呼吸器の知識が理解できる	
循環器系（山本）	1	循環器系の構成 心臓の構造①	循環器系の構成（体循環・肺循環）が理解できる 心臓の構造（位置・部屋・弁・心臓壁・心臓の血管と神経刺激伝導系）が理解できる	
	2	末梢循環系の構造①	血管の構造・主要動脈と静脈が理解できる	
	3	心臓の構造② 末梢循環系の構造②	循環器系の構成・心臓の構造について理解を深める 血管の構造・主要動脈と静脈について理解を深める	小テスト
	4	心臓の拍出機能① （心電図・心臓の収縮）	心電図の成分と刺激伝導系の関係が理解できる 心拍出量と血圧が理解できる	
	5	心臓の拍出機能② （心周期、圧-容積の関係）	心周期が理解できる 心臓の圧ー容積の関係、前負荷・後負荷が理解できる	
	6	心臓の拍出機能③ （心臓を規定する因子）	心臓の拍出機能について理解を深める うっ血性心不全における血液分布の変化がわかる	小テスト
	7	心臓の拍出機能④　不整脈	不整脈と心臓の拍出の関連について理解できる	
	8	血液の循環とその調節①	血圧と血液の循環について理解できる 血圧・血流量の調節について理解できる	
	9	血液の循環とその調節② リンパ管の構造と循環	微小循環・物質交換について理解できる リンパ管の構造と循環について理解できる	

受講上の注意

学習者として主体的に学んでください
呼吸器は反転授業です。事前課題に取り組んでから授業に参加してください。

評価方法

筆記試験（呼吸器系・循環器系）
小テスト（循環器系）

使用するeテキスト

解剖生理学
看護学生スタディガイド

使用するテキスト

参考となるeテキスト

呼吸器　・　循環器

参考文献

科目No. 18	配当時期	担当者
科目名　解剖生理学Ⅲ 運動器系 感覚器系 血液 時間割表記名　解Ⅲ　運動器系 感覚器系 血液	1年次前期 単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	運動器系　横関　智恵 感覚器系　阿形　奈津子 血液　森田　真帆

科目のねらい

人体を構成する各器官の基本的な構造（形態）と機能を学ぶ

授業目標

運動器系　運動器の解剖と機能を系統立てて理解することができる
感覚器系　感覚器の解剖と機能を系統立てて理解することができる
血液　血液の解剖と機能を系統立てて理解することができる

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

	回	学習内容	学習成果	テキスト
運動器系（横関）	1	骨の構造と機能	骨の発生・構造と機能を理解する	
	2	骨の連結 骨格筋	関節の構造、種類と運動について理解する 筋の基本的構造と作用を理解する	
	3	運動のメカニズム	骨格筋の収縮について理解する 運動機能と下行伝導路について理解する	
	4	体幹の骨格と筋	脊柱の構造を理解する 体幹に着く筋を理解する	
	5	上肢の骨格と筋	自由上肢の構造と運動を理解する 手の構造と運動を理解する	
	6	下肢の骨格と筋	自由下肢の構造と運動を理解する 骨盤の構造を理解する	
	7	頭頸部の骨格と筋	頭蓋の構造を理解する 表情筋・咀嚼筋・頸部の筋を理解する	
感覚器系（阿形）	1	感覚器の分類と特殊感覚器が理解できる。	①特殊感覚器と一般体性感覚器の違いと部位②視覚器の構造と名称、各部の機能Ⅰ（眼球壁の名称と機能）	
	2	視覚器の構造と機能が理解できる。	①視覚器の構造と名称、各部の機能Ⅱ（眼球内容物の名称と機能・視覚機能とその評価）	
	3	聴覚器・平衡感覚器の構造と機能が理解できる。	①聴覚器の構造と名称、各部の機能（外耳～蝸牛まで） ②平衡感覚器の構造と名称、各部の機能（半規管～内耳まで）	
	4	味覚器・嗅覚器・皮膚感覚器の構造と機能が理解できる。	①味覚器・嗅覚器・皮膚感覚器の構造と名称、各部の機能（味蕾・嗅細胞・触覚・温度覚・痛覚）	
血液（森田）	1	血液の組成 血球の分化・血液型	血液の組成と血液型について理解できる 造血のしくみについて理解できる	
	2	赤血球の役割 赤血球の新生と破壊	赤血球の役割について理解できる 赤血球の新生と破壊について理解できる	
	3	白血球の役割 血漿タンパク・免疫	白血球の役割・免疫について理解できる 血漿タンパクの分類と各役割について理解できる	
	4	血小板 ー凝固のしくみー	血小板の役割について理解できる 血液凝固のメカニズムについて理解できる	

受講上の注意

学習者として主体的に学んでください

評価方法

筆記試験
（運動器50点・感覚器25点・血液25点）

使用するeテキスト

解剖生理学

使用するテキスト

参考となるeテキスト

看護学生スタディガイド
運動器　・　皮膚　・　眼
耳鼻咽喉　・　血液・造血器

参考文献

科目No. 19	配当時期	担当者
科目名　解剖生理学Ⅳ 消化器系　内分泌系 時間割表記名　解Ⅳ　消化器系 解Ⅳ　内分泌系	1年次前期 単位数　1単位 時間数　30時間（15回）	消化器系　馬渕（まぶち）　成美（なるみ） 内分泌系　馬渕（まぶち）　成美（なるみ）

科目全体のねらい

人体を構成する各器官の基本的な構造（形態）と機能を学ぶ

授業目標

消化器系　消化器の解剖と機能を、系統立てて理解することができる

内分泌系　内分泌系による調整について理解することができる

ディプロマポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

＜消化器系＞ 8回

回	学習内容	方法	学習成果
1	消化器系の構造	講義	食物の摂取から排泄までの流れが理解できる 消化管各部の名称を口腔から順に述べることができる
2	口の構造と機能	講義	口の構造と機能が理解できる 咀嚼について理解できる
3	咽頭・食道の構造と機能	講義	咽頭・食道の構造と機能が理解できる 嚥下について理解できる
4	胃の構造と機能	講義	胃の構造と機能が理解できる
5	小腸・大腸の構造と機能	講義	小腸（十二指腸・空腸・回腸）の構造と機能が理解できる　小テスト
6	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能	講義	肝臓の構造と機能が理解できる 胆嚢の構造と機能が理解できる 膵臓の構造と機能が理解できる
7			
8	栄養素の消化と吸収	講義	食物の消化・吸収の流れが理解できる 三大栄養素の消化と吸収が理解できる　小テスト

＜内分泌系＞ 7回

回	学習内容	方法	学習成果
1	内分泌とホルモン	講義	内分泌の概要、ホルモン分子とその作用機序について理解する
2	視床下部ー下垂体系	講義	視床下部、下垂体からのホルモン、その標的について学ぶ
3	甲状腺と副甲状腺	講義	甲状腺と副甲状腺ホルモンとその多様な働きについて知る 小テスト
4	副腎およびストレスとの関連	講義	副腎皮質および髄質からの多様なホルモンとそれらの役割を学ぶ
5	膵臓	講義	膵臓の内分泌腺としての働き、糖代謝への関わりおよび糖尿病を学ぶ
6 7	高血圧と内分泌、それ以外のホルモン	講義	高血圧は内分泌によって制御されている仕組みを学ぶ 主要な内分泌器官以外のホルモンの存在を学ぶ　小テスト

受講上の注意

＜消化器系＞小テストを行います。

＜内分泌系＞小テストを行います。

評価方法

消化器系
筆記試験　50点

内分泌系
筆記試験　50点

使用するeテキスト

解剖生理学

使用するテキスト

参考となるeテキスト

消化器　・　内分泌・代謝

参考文献

看護学生スタディガイド（照林社）

科目No. 20	配当時期	担当者
科目名　解剖生理学Ⅴ 腎・泌尿器系 生殖器系 体液	1年次後期 単位数 1単位 時間数	腎・泌尿器系　池田　恵 生殖器系　馬渕　成美 体液　馬渕　成美
時間割表記名　解Ⅴ　腎・泌尿器系　生殖器系　体液	30時間（15回）	ディプロマポリシーとの関連

科目のねらい

人体を構成する各器官の基本的な構造（形態）と機能を学ぶ

授業目標

＜泌尿器系＞腎・排尿路の構造と機能を理解する

＜生殖器系＞ヒトの生殖器の構造と機能を知り、受精、胎児の発生、母体との関係について解剖学的知識を得る

＜体液＞体液の成分とその役割について理解する

	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

＜腎・泌尿器系＞ 6回　担当：池田

回	学習内容	学 習 成 果	使用テキスト
第１回	腎臓の位置・構造	腎臓の構造上の特徴を理解する	第５章Ａ①腎臓の構造と機能
第２回	排尿路の構造	尿管・膀胱・尿道の構造を理解する	第５章Ｂ①排尿路の構造
第３回	腎臓の機能①	尿の生成機能を理解する	第５章Ａ①腎臓の構造と機能　他
第４回	腎臓の機能②	腎の内分泌機能を理解する	第５章Ａ①腎臓の構造と機能　他
第５回	排尿メカニズム	排尿のメカニズムを理解する	第５章Ｂ②尿の貯蔵と排尿 他
第６回	腎・尿の検査	腎臓機能検査、尿検査を理解する	第５章Ｂ②尿の貯蔵と排尿 他

＜生殖器系＞ 5回　担当：馬渕

回	学習内容	学 習 成 果
第1回	男性生殖器	男性生殖器の構造と機能を理解する。
第2回	女性生殖器	女性生殖器の構造と機能を理解する。
第3回	卵巣周期と月経周期	卵巣周期、月経周期におけるホルモンの調節を理解する。
第4回	受精と着床と胎児の発生	受精と着床と胎児の初期発生を学ぶ。
第5回	母体と胎児と胎児循環	胎児循環と胎盤のはたらきを理解する。

＜体液＞　4回　担当：馬渕

回数	学習内容	学習成果	使用テキスト
第1回	体液と電解質	体液の区分と特徴を理解する 水の出納を理解する	第１章Ｃ②体液とホメオスタシス 第５章Ｃ①水の出納
第2回	電解質異常と脱水	電解質の異常を理解する 脱水の分類と特徴を理解する	第５章Ｃ③電解質の異常 第５章Ｃ②脱水　小テスト
第3回	酸塩基平衡	血漿のｐＨを理解する 酸塩基を支える仕組みを理解する	第５章Ｃ④酸塩基平衡
第4回	酸塩基平衡の異常	アルカローシスを理解する アシドーシスを理解する	第５章Ｃ④酸塩基平衡 小テスト

受講上の注意

授業前には前回の講義の復習を終えておくこと

＜腎・泌尿器系＞ 2回目～6回目は前回授業の復習テストを行います。

「看護学生スタディガイド」から出題する予定です。

＜体液＞参加型で行います。小テストは授業開始時に行います。

評価方法

筆記試験

腎・泌尿器系　40点

生殖器系　30点

体液　30点

使用するeテキスト

解剖生理学

参考となるeテキスト

腎・泌尿器

女性生殖器

看護学生スタディガイド

使用するテキスト

参考文献

看護系で役立つ化学の基本（化学同人）

看護系で役立つ生物の基本（化学同人）

科目No. 21		配当時期	担当者
科目名	栄養と代謝	1年次前期 単位数 1単位	いしかわ みちこ ①石川　道子 にしざわ ②西沢　いづみ
時間割表記名	栄養と代謝① 栄養と代謝②	時間数 30時間(15回)	ディプロマポリシーとの関連

科目のねらい

人体における物質代謝やエネルギーについて学ぶ。そして人間にとっての栄養の意義、ライフサイクルの中での栄養の特徴を理解し、食事療法や栄養指導の基礎を学ぶ

授業目標

臨床栄養学を幅広い観点から見極められるような基礎知識を習得する
食物の適切・不適切な摂取が生体生命、健康維持、疾病、治療回復にどのような係りを持っているか学ぶ
生体内で生じる化学変化・エネルギー変換を学ぶ
私たちが摂取する食べ物や栄養素の基礎知識、健康や疾病との関わりを学び、健康維持、疾病特に生活習慣病の一次予防、治療回復、寝たきり介護者を減らし健康寿命を延ばすことに役立てる。

	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)

栄養と代謝①（１０回）
看護師として正しい栄養学の基礎知識と栄養健康情報を学び、医療に役立て、伝え、指導でできることは必要です。
何をどのようにどれくらいいつ食べたらよいかも、栄養疫学により明らかにされ、時代の流れと共に変化していきます。
「EBN」evidence-based nutrition「根拠に基づく栄養学」の流れに沿い講義を進めます。

1．食物に含まれている栄養素の種類、体内での役割、バランス良い摂取割合を学習
2．たんぱく質：タンパク質の栄養価の評価方法を学び、食事をする時の効率よい摂取方法、一日の摂取量を知る
3．脂質：食品中の脂質は食品によって脂質を構成している脂肪酸の種類が異なり、生理作用も大きく異なることを学習
4．炭水化物：食品に含まれている炭水化物の中で栄養上重要なもの、栄養価値、適切な摂取量、方法を学習
5．食物繊維：食品に含まれる食物繊維の種類を知り、重要な生理作用、生活習慣病とのかかわりを学習
6．ミネラル：ｶﾙｼｳﾑ、ﾘﾝ、ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ、ﾅﾄﾘｳﾑ、ｶﾘｳﾑ、鉄の臨床栄養上重要な働きを学習
7．ビタミン：エネルギー代謝・生活習慣病と関わり、機能を発揮するビタミンについて学習する
8．エネルギー代謝：食品の持つエネルギー量を知る方法、生体におけるエネルギー代謝、計算方法を学習
9．生活習慣病の一次予防を踏まえた食生活、栄養摂取、高齢者の健康寿命に大きな役割を果たしている食生活を学習
10．治療、機能回復に栄養が深く係り重要である疾病の食事療法を学習

栄養と代謝②（５回）

1．化学エネルギーと代謝：異化と同化・三大栄養素の消化・吸収、異化作用によるエネルギー獲得(5章)
2．化学反応と酵素・糖質の代謝・糖新生の流れ：血糖値の維持について学習(6章・7章)
3．脂質の代謝と運搬：エネルギーの長期貯蔵庫であり、体内での脂質の運搬について学習(8章)
4．タンパク質・アミノ酸の代謝：タンパク質の消化吸収・アミノ酸の分解・合成の過程を学習(9章)
5．糖質が余分にある時とない時・糖尿病の代謝：代謝とホルモンのバランスについて学習(9章)

受講上の注意

栄養と代謝①（石川）：授業は指定テキスト、資料プリントを使用し講義形式で進める。
毎回講義終了時に学んだ事が理解できているか簡単な小テストを行うので、
各自ノートを用意し重要事項を書き留めておくこと.
栄養と代謝②（西沢）：講義およびテキストの栄養素の代謝はしっかり理解しておくこと

評価方法

筆記試験
①70点　②30点

使用するeテキスト

栄養と代謝①（石川）
栄養学
栄養と代謝②（西沢）
看護系で役立つ生物の基本（化学同人）
看護系で役立つ化学の基本（化学同人）

使用するテキスト

参考となるeテキスト

生化学

参考文献

ナーシング・グラフィカ　臨床栄養学／臨床生化学（メディカ出版）

科目No. 22	配当時期	担当者
科目名　臨床微生物 時間割表記名　臨床微生物	1年次後期 単位数　1単位 時間数　30時間（15回）	ふじた　なおひさ 藤田　直久

科目のねらい
人体へ影響を及ぼす微生物の種類や特徴、感染経路を学ぶとともに生体の防御機構を知りその予防対策を学ぶ

授業目標
医療の進歩によって感染症は形を変えて我々の健康をおびやかしており、看護にあたっては微生物学の基本的知識の習得が求められている。
微生物学のアウトラインを与え、個々の微生物による感染症についての基礎知識を学習する。また、感染防御機構についても学習する。

ディプロマポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

病原微生物学　（1～10回）
①微生物とは何か、また、何故看護に従事する人々は微生物学の体系的知識を必要とするかを学習する。

②日和見感染、院内感染、菌交代症などの感染と発病、滅菌と消毒、化学療法、感染症の予防について学習する。

③代表的な個々の細菌、ウイルス、真菌、原虫による感染症について学習する。
小児に多い感染症についても言及する。

感染防御機構　（11～15回）
感染に対する生体の防御機構について学習する。
①自然免疫：感染早期に病原体一般に働く仕組み
・生体表面での防御機構　・食細胞とNK細胞　・サイトカイン

②獲得免疫（免疫系）：病原体と専門的に働く仕組み
・免疫系の細胞　・抗原　・免疫応答　・液性免疫　・細胞性免疫

③予防接種

受講上の注意
講義終了後に小テストを実施する

評価方法
筆記試験

使用するeテキスト
微生物学

使用するテキスト

参考となるeテキスト
アレルギー・膠原病・感染症

参考文献
ナーシング・グラフィカ　臨床微生物・医動物（メディカ出版）

科目No. 23	配当時期	担当者
科目名 病理学	1年次全期	おかもと　えいいち 岡本　英一
時間割表記名 病理学	単位数 1単位	
	時間数 30時間（15回）	ディプロマ・ポリシーとの関連

科目全体のねらい

疾病の成り立ちと病変の特徴の基本的な知識を学ぶ

授業目標

病気の成り立ちや身体内での病的変化が実際にはどのようなものであるか理解する

	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習内容	方法	学習成果
1	病理学で学ぶこと	講義	病理学の概要がわかる
2	細胞・組織の障害と修復、炎症①	講義	細胞・組織の損傷に対する反応としての炎症を理解する
3	細胞・組織の障害と修復、炎症②	講義	
4	免疫、移植と再生医療	講義	免疫、移植と再生医療についてわかる
5	感染症①	講義	代表的な感染症がわかる
6	感染症②	講義	
7	循環障害①	講義	代表的な循環障害がわかる
8	循環障害②	講義	
9	代謝障害①	講義	代表的な代謝障害がわかる
10	代謝障害②	講義	
11	老化と死	講義	老化と死を考えることができる
12	先天異常と遺伝子異常	講義	代表的な先天異常と遺伝子異常がわかる
13	腫瘍①	講義	腫瘍のメカニズムを理解し、代表的な腫瘍疾患がわかる
14	腫瘍②	講義	
15	生活習慣と環境因子による生体の障害	講義	生活習慣と環境因子による生体の障害がわかる

受講上の注意

指定教科書に沿って講義を進めます。限られた時間なので講義中の質疑応答は短くしますが、終講後も歓迎します。

評価方法

筆記試験

使用するeテキスト

病理学

使用するテキスト

参考となるeテキスト

参考文献

科目No. 24	配当時期	担当者
科目名　疾病理解の看護学的視点・症候論 時間割表記名　疾看・症候論	1年次後期 単位数 1/2単位 時間数 22時間（11回）	いけにし しづえ 池西 静江

ディプロマポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

科目のねらい

解剖生理や病態生理学の知識を基に、疾病や症候を看護の視点から捉える能力を培う

授業目標

1．疾病の成り立ちに関与する因子を理解し、予防活動のあり方を考えることができる
2．疾病によって生じる生体の構造と機能の変化を理解し、疾病あるいは症候の理解を深め、看護に活用できる知識にすることができる。
3．学習方法を習得し、主体的に学習ができるようになる

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習内容および学習成果	方法	評価	備考
1	1）疾病の成り立ちに関与する因子が理解できる 2）関与する因子を理解し、予防活動の理解につなげる	講義		eテキスト② 講義資料
2	肺の悪性腫瘍① 疾病をどう理解するか。肺の悪性腫瘍を例にあげて考える	講義		
3	肺の悪性腫瘍② 個人テスト・チームテスト・ミニ講義・アピールタイム	TBL	10点	
4	肺の悪性腫瘍③ 病態関連図の作成	TBL	病態関連図 6点	
5	肺の悪性腫瘍④ 病態関連図のチーム発表（パワーポイントで）	TBL	発表5点	
6	肝臓の炎症① 個人テスト・チームテスト・ミニ講義・アピールタイム	TBL	10点	
7	肝臓の炎症② 事例の身体に起こっていることを理解する（病態関連図）	TBL	5点	
8	心臓の循環障害① 個人テスト・チームテスト・ミニ講義・アピールタイム	TBL	10点	
9	心臓の循環障害② 事例の身体に起こっていることを理解する（病態関連図）	TBL	5点	
10	腎臓の炎症① 個人テスト・チームテスト・ミニ講義・アピールタイム	TBL	10点	
11	腎臓の炎症② 事例の身体に起こっていることを理解する（病態関連図）	TBL	5点	

※課題提出（脳の循環障害の病態関連図）　提出期日が守れたものを評価する。（10点配点）

受講上の注意

TBLは指定するテキストを事前に学習して、個人とチームでテストに取り組む形式で学習を進める。欠席のないように授業に参加すること
TBLはチームで学習する。主体的な学習を期待する。
そして、欠席した場合はその日の評価は0点になるので欠席をしないように。
この学習は健康回復支援総論につながる科目である。

評価方法

TBLでのテスト／課題　上記の通り
計　66点
課題学習評価（脳）　10点
症候論（24点）と合わせて100点
終講時の筆記試験は実施しない。

使用するeテキスト

① 解剖生理学
② 病理学

使用するテキスト

③看護学生スタディガイド（照林社）
④アセスメントに使える疾患と看護の知識（照林社）

参考となるeテキスト

病態生理学

参考文献

科目No. 24	配当時期	担当者
科目名　疾病理解の看護学的視点・症候論 時間割表記名　疾看・症候論	1年次後期 単位数 1／2単位 時間数 8時間（4回）	いけにし しづえ 池西 静江

科目のねらい

解剖生理や病態生理学の知識を基に、疾病や症候を看護の視点から捉える能力を培う

授業目標

1．疾病の成り立ちに関与する因子を理解し、予防活動よついて考えることができる
2．疾病によって生じる生体の構造と機能の変化を理解し、疾病あるいは症候の理解を深め、看護に活用できる知識にすることができる
3．学習方法を習得し、主体的に学習ができるようになる

ディプロマポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性豊かな人材
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる人材
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる人材
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる人材
○	5. 看護を探求しつづける人材

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回	学習内容と目標	方法	備考
1	ショック 1）ショックが起こるメカニズムを理解することができる 2）ショックの種類を理解し、種類に応じた対処方法が考えられる	講義	テキスト 資料
2	チアノーゼ 1）チアノーゼが起こるメカニズムを理解することができる 2）チアノーゼの観察ポイントと対処方法が考えられる	講義	テキスト 資料
3	疼痛／胸痛 1）疼痛が起こるメカニズムを理解することができる 2）胸痛の原因を理解し、原因に応じた対処が考えられる	講義	テキスト 資料
4	乏尿／無尿／尿閉 1）排尿障害が起こるメカニズムを理解することができる 2）排尿障害の観察ポイントと対処方法が考えられる	講義	テキスト 資料

※症候は変わることがある
※各回授業終了時、授業の理解度を確認するポストテストを実施する

受講上の注意

1回、1回違う症候のため、欠席をしないようにすること
病気をもつ患者さんの看護に欠かせない知識である。
国家試験の必修問題であるので、しっかり理解しておくこと
ポストテストの欠席は0点となる

評価方法

1回6点で計24点の配点で
疾病理解の看護学的視点と
合わせて100点の評価
各回にポストテストで評価
筆記試験は実施しない

使用するeテキスト

解剖生理学
看護学生スタディガイド（照林社）

使用するテキスト

参考となるeテキスト

病態生理学

参考文献

科目No. 25	配当時期	担当者
科目名　臨床検査 時間割表記名　臨床検査	1年次後期 単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	泉田　洋志 ほか

科目のねらい

診断に必要な検査とその結果の読み取りについて学ぶ

授業目標

1．主な臨床検査項目の検査目的と意義を知り、患者に検査前説明ができることを目標にする。
2．血糖検査・血液検査・尿検査・輸血検査を模擬体験し、理解を深める
3．心電図検査を実体験し、理解を深める

	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

	項目	形態		内容
1	一般検査	講義	篠田	
2	免疫・血清検査	講義	林	
3	輸血検査	講義	林	
4	生化学検査	講義	篠田	
5	生化学検査	講義	篠田	
6	血液検査	講義	泉田	
7	微生物検査	講義	藤田	
8	病理検査	講義	宮井	
9	検体検査実習	＊実習	泉田	血糖、血液型、血液検査、尿検査
10	検体検査実習	＊実習	泉田	血糖、血液型、血液検査、尿検査
11	生理機能検査	講義	小西	
12	生理機能検査	講義	小西	
13	生理機能検査	＊実習	泉田	１２誘導心電図、モニター心電図
14	生理機能検査	＊実習	泉田	１２誘導心電図、モニター心電図
15	まとめ	講義	泉田	課題

受講上の注意

実習は京都保健衛生専門学校（京都市上京区）で行います。
注意事項については事前に指示します。

生化学、解剖・生理、腎・泌尿器、循環器、呼吸器、内分泌・代謝、血液・造血器の内容を事前に学習しておくこと

評価方法

筆記試験
実習レポート

使用するeテキスト

臨床検査

使用するテキスト

参考となるeテキスト

参考文献

科目No. 26	配当時期	担当者
科目名　疾病論Ⅰ 脳神経障害　運動器障害　自己免疫障害 時間割表記名　疾Ⅰ　脳神経障害 疾Ⅰ　運動器障害　疾Ⅰ　自己免疫障害	1年次後期 単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	脳神経　中澤（なかざわ）　拓（たくや）也 運動器　上島（うえしま）　圭（けいいちろう）一郎 自己免疫　志村（しむら）　勇（ゆうじ）司

科目のねらい

疾病の概念・診断基準及び鑑別・治療の目的・方法について学ぶ

授業目標

脳神経障害：頻度の高い神経疾患について理解を深める。
運動器障害：主な運動器疾患や外傷の病態を学び、治療や診断について理解する
自己免疫障害：免疫のしくみとその主な異常である自己免疫疾患及びアレルギー疾患の病態を理解する。

ディプロマポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

＜脳神経障害＞　8回　担当：中澤

回	学習内容	方法	学習成果
1	脳血管障害　出血性病変	講義	くも膜下出血を中心とした頭蓋内出血の病態・症状・治療の理解
2 3	脳血管障害　閉塞性病変	講義	脳梗塞についてのその分類、病態・症状・治療を理解する
4	頭部外傷・水頭症・小児の脳疾患	講義	頭部外傷、水頭症の病態理解とその管理方法がわかる
5	脳腫瘍・脳感染症について	講義	脳腫瘍・脳感染症の分類、治療とその特徴を理解する
6	脊髄・脊椎末梢神経疾患について	講義	どのような病気があるかを知り、病態・管理を理解する
7	神経内科的疾患	講義	代表的疾患について、その特徴を理解する
8	検査・診断と治療・処置の流れ	講義	代表的な脳疾患の診断から、治療・処置の流れがわかる

＜運動器障害＞　4回　担当：上島

回	学習内容	方法	学習成果
1	運動器疾患　総論・各論１外傷	講義	運動器疾患に対する診断、治療の基本を理解する。骨折の病態
2	各論２　運動器リハビリテーション	講義	ロコモティブシンドロームやサルコペニアの概念と予防を理解する
3	各論３　関節疾患	講義	変形性関節症・関節リュウマチの病態、診断・治療を理解する スポーツ外傷に対する治療を理解する
4	各論４　脊椎・脊髄疾患・骨粗鬆症	講義	脊椎・脊髄疾患の病態、診断・治療を理解する 骨粗鬆症の病態、診断・治療を理解する

＜自己免疫障害＞　3回　担当：志村

回	学習内容	方法	学習成果
1	自己免疫疾患の病態と診断・治療	講義	代表的な膠原病とその類縁疾患について理解する
2	アレルギー性疾患の病態と診断・治療	講義	代表的なアレルギー疾患について理解する
3	免疫低下に関する疾患の病態、診断・治療	講義	敗血症、ヒト免疫不全ウイルス感染症、その他感染症について理解する

受講上の注意

脳神経障害：私語は慎む、質問は好きなときにしてください。神経解剖の基本的な知識はある程度習得しておく（特に中枢神経系の機能）
運動器障害：解剖学や運動学、生理学などの知識の確認を行うこと。
自己免疫障害：解剖学、生理学などで学習した免疫系について内容を十分に復習してから授業に臨んでください。

評価方法

筆記試験
脳神経障害　50点
運動器障害　25点
自己免疫障害　25点

使用するeテキスト

脳・神経
運動器
アレルギー・膠原病・感染症

使用するテキスト

参考となるeテキスト

解剖生理学
病態生理学

参考文献

久保俊一　編著　図解　整形外科　第３版　金芳堂
久保俊一　編　リハビリテーション医学・　医療　医学書院

科目No. 27	配当時期	担当者
科目名　疾病論Ⅱ 呼吸器障害　循環器障害　血液・造血器障害 時間割表記名　疾Ⅱ　呼吸器障害 疾Ⅱ　循環器障害　疾Ⅱ　血液・造血器障害	1年次後期 単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	呼吸器障害　原（はら） 洋（ひろし） 循環器障害　八木（やぎ） 崇文（たかふみ） 血液・造血器障害　志村（しむら） 勇司（ゆうじ）

科目のねらい

疾病の概念・診断基準及び鑑別・治療の目的・方法について学ぶ

授業目標

＜呼吸器障害＞

呼吸器疾患のおもな症状・疾患・治療についての理解を期待する。

＜循環器障害＞

循環器疾患に見られる主な症状と治療について理解する

疾患を診断する為の検査と検査結果の読み方について学ぶ

＜血液・造血器障害＞

造血器を構成する成分の正常機能とその異常である造血器疾患の病態を理解する

ディプロマポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

＜呼吸器障害＞　5回　担当：原

回	学習内容	学 習 成 果
第１回	1）呼吸器症状 ＊呼吸器疾患特有な症状の病態生理を学び、よりよい科学的な看護をめざす	咳嗽・慢性咳嗽、喀痰、血痰、喀血、呼吸の異常、 呼吸困難、血液ガス異常と肺疾患などを理解する。
第２回	2）呼吸器疾患の診断 ＊検査 ＊胸部の聴診など理学的所見	呼吸器疾患診断に必要な検査を理解する。胸部症状と理学所見の関連を 理解して適切な看護を目指す。呼吸器疾患の診断は既往歴、家族歴、職業歴、 生活歴、治療歴が重要。胸部聴診所見など理学所見を理解する。
第３回	3）呼吸疾患の主な治療法 ＊薬物療法　＊放射線療法 ＊外科療法　＊呼吸理学療法とリハビリテーション	疾患と症状に応じた多彩な呼吸器疾患治療の概略を 理解する。患者にとってより良い治療とは関係職種の 有機的な協力においてのみ成り立つことを理解する。
第４回 第５回	4）主な呼吸器疾患各論 ＊呼吸器疾患と胸部外科療法	感染性疾患、換気障害、アレルギー性疾患、腫瘍性疾患等の内で主要な疾患 について概略を理解する。 外科的治療を要する疾患と呼吸器外科療法の概略を理解する。

＜循環器障害＞　6回　担当：八木

回	学習内容	学 習 成 果
第1回	循環器疾患にみられる症状と症状から考えられる病態 循環器疾患診断に必要な検査	循環器疾患にみられる症状と診断に必要な検査について理解する。
第2回 第3回 第4回 第5回 第6回	循環器疾患の診断と治療 １．虚血性心疾患（心筋梗塞・狭心症） ２．心不全 ３．心筋心膜疾患（心筋症・心筋炎・心膜炎） ４．弁膜症 ５．不整脈 ６．動脈・静脈疾患 ７．高血圧症	循環器の主な疾患とその治療について理解する。

＜血液・造血器障害＞　4回　担当：志村

回数	学習内容	学習成果
第1回	血液の生理・造血のしくみ、身体所見と各種検査 赤血球疾患（貧血）	血液の生理について理解する。異常時の身体所見、検査所見について理解する。 各種貧血の原因、病態、治療について理解する。
第2回	出血性疾患（血小板異常、凝固異常）	血小板異常に伴う出血性疾患の原因、病態、治療について理解する。 凝固異常の病態、治療について理解する。
第3回	白血球異常、血液腫瘍	白血球数異常、血液疾患（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）について、 病態、検査、治療の基本を学習する。
第4回	造血幹細胞移植、新たな治療	造血細胞移植について、適応、合併症について理解する。 細胞治療について理解する

受講上の注意

＜事前学習内容＞

授業前には前回の講義の復習を終えておくこと

評価方法

筆記試験

（呼吸器30点・循環器40点・血液30点）

使用するeテキスト

呼吸器　／　循環器　／　血液・造血器

使用するテキスト

参考となるeテキスト

解剖生理学　／　病態生理学

参考文献

科目No. 3	配当時期	担当者
科目名　薬理学	1年次後期	喜多（きた） 大三（たいぞう）
時間割表記名　薬理学	単位数 1単位	
	時間数 30時間（15回）	

科目のねらい

看護に必要な薬理学・薬物治療の知識、薬物の管理や取り扱い、薬物の有害作用などについて学ぶ

授業目標

薬物治療に使用される薬物の幅広い知識を習得する。
薬物動態、薬物の管理に必要な基礎的な知識を習得する。
疾病の薬物治療と与薬の実践者として、その効果や有害作用を観察できる知識を修得する。

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回	学習内容	学習効果
1	薬理学総論① 薬物治療と看護、薬理学とは何か	薬物治療での与薬者としての薬理学的知識が習得できるチームによる薬物治療と看護師の役割について理解できる
2	薬理学総論② 薬力学と薬物動態学など	薬が作用するしくみを理解できる 薬物の体内動態、薬物間相互作用などが理解できる
3	薬理学総論③ 薬物の有益性と危険性など 薬と法律など	薬効の個人差に影響する因子などが理解できる 薬物の有益性と危険性を理解できる 薬と法律が理解できる
4	末梢神経での神経活動に作用する薬物	末梢神経での神経活動に作用する主な薬物が理解できる
5	抗アレルギー・抗炎症作用にする薬物	抗アレルギー・抗炎症作用のある主な薬物が理解できる
6	中枢神経系に作用する薬物	中枢神経系に作用する主な薬物が理解できる
7	免疫治療薬	免疫抑制薬・免疫増強薬・予防接種薬の主な薬物が理解できる
8	呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物	呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する主な薬物が理解できる
9	物質代謝に作用する薬物①	糖尿病薬・甲状腺疾患治療薬の主な薬物が理解できる
10	物質代謝に作用する薬物②	視床下部・下垂体ホルモン製剤・骨粗鬆症治療薬、ビタミン類の主な薬物が理解できる
11	循環器系に作用する薬物①	降圧薬、狭心症・心不全治療薬の主な薬物が理解できる
12	循環器系に作用する薬物②	抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液凝固・線溶系、血液に作用する主な薬物が理解できる
13	抗感染症薬	抗感染症作用のある主な薬物が理解できる
14	抗がん薬	抗がん薬の主な薬物が理解できる
15	皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬、	皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬の主な薬物が理解できる

受講上の注意

事前学習として、授業で学ぶ章について閲続しておくこと
事後学習として、授業で学んだ章についてふりかえりレポートにまとめ、期日までに提出すること　なお、次週に併せてその章の理解度確認テストを実施する

評価方法

筆記試験　60点
各章テスト・ふりかえりレポート　40点

使用するeテキスト

薬理学　（疾病のなりたちと回復の促進③）

使用するテキスト

参考となるeテキスト

参考文献

科目No. 39	配当時期	担当者
科目名　基礎看護学 看護学原論Ⅰ 時間割表記名　看護学原論Ⅰ	1年次全期 単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	阿形　奈津子

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

科目全体のねらい

人間・健康・環境の概念および看護の定義・機能を学び、看護が社会において果たすべき役割を考え、看護とは何かを主体的に追究する

授業目標

具体的な事例や場面を通して看護に興味がもてる
看護について、人間について、健康について、環境・社会について深く考えることができる
看護理論を学び、看護とは何か、自分の言葉で語ることができる
自己の看護観を明確にする

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回	学習目標と内容	方法	備考
1	1）事例を通して、看護とは何かを考えることができる 2）看護学の学習目標及び方法が理解できる 3）看護の本質・ケアについて考えることができる	講義 演習	講義資料 教科書１
2	1）さまざまな看護の定義から看護を考えることができる 2）保健師助産師看護師法から看護を考えることができる	講義 演習	講義資料 教科書１
3	1)事例・場面を通して看護の方法が理解できる 2)事例を通して医師の役割、看護の役割について考えられる	講義 演習	講義資料 教科書１
4	1）専門職とは何かが理解できる 2）看護者の倫理綱領から看護を考えることができる	講義	講義資料 教科書3
5	1）看護理論についての基礎的な知識が理解できる 2）看護理論を学ぶ意義が理解できる	講義	講義資料 教科書１
6	1）ナイチンゲールの看護論について理解を深めることができる	講義	講義資料・教科書２
7	1）マズローの欲求階層説が理解できる 2）ニードと生活行動の関連が理解できる 3）ヘンダーソンの看護の構成要素が理解できる	講義	講義資料 教科書１
8	1）看護に活用する発達理論と相互作用理論が理解できる 2）発達理論と相互作用論を活用したペプロウの看護論が理解できる	講義	講義資料 教科書１
9	1）全体性を捉えるシステム理論が理解できる 2）システム理論を活用したロイ看護論が理解できる	講義	講義資料 教科書１
10	看護研究発表を聴講し、先輩から看護を学び自己の看護観形成に活かすことができる	発表会参加	リフレクションシート
11	1）健康の概念が理解できる 2）看護の目指す健康について考えることができる	講義	講義資料 教科書１
12	1）外部環境について理解することができる 2）環境における看護の責務について認識する	講義 講義	講義資料 講義資料
13	1）看護活動の場と様々な保健医療職者を理解する 2)継続看護の必要性が理解できる 3)協働・連携の意義を踏まえ、その効果的な方法について考える	講義	講義資料
14	臨地実習のリフレクションを通して、看護とは何かを深めることができる	演習	リフレクションシート
15	これからの社会に求められる看護職の能力とは何かを考えることができる	講義	講義資料

受講上の注意

出席してともに考える授業です。遅刻欠席のないようにしましょう。
ナイチンゲール「看護覚え書」を１冊読むことが夏期休暇中の課題です
最終は「自己の看護観」について書いてもらいます。

評価方法

筆記試験　６０点
夏期休暇課題　１０点＋５点
自己の看護観　２５点

使用するeテキスト

1. 看護学概論（医学書院）
3. よくわかる看護職の倫理綱領（照林社）
4. 看護学生スタディガイド（照林社）

使用するテキスト

2. 看護覚え書（現代社）

参考文献

授業のなかで紹介します

科目No. 41	配当時期	担当者
科目名　共通基本技術Ⅰ	1年次全期	技術論　山本　絵奈
	単位数 1単位	安全　森田　真帆
時間割表記名　共通技Ⅰ　技術論　安全	時間数 30時間（15回）	

科目のねらい

看護技術を支える要素を理解し、看護技術を提供する時の基礎的知識・技術・態度を学ぶ

授業目標

1．看護技術を支える要素を理解し、看護技術を提供する時の基礎的知識・技術・態度を身につける
2．看護技術の基盤としての医療安全を理解し、安全管理の技術を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

＜技術論＞

回数	学習内容	方法	学習成果
1回目	実習室オリエンテーション 「私の技術習得の歩み」 技術・看護技術とは	講義 （実習室）	1．実習室使用時の服装、実習室の使用方法がわかる 2．「私の看護技術習得の歩み」の意義、使用方法がわかる 3．技術・看護技術とは何かがわかる
2回目	看護技術の特徴・範囲 看護技術を適切に実践する要素	演習	1．看護技術の特徴・範囲がわかる 2．看護技術を適切に実践するための要素をラウンドロビンを用いて考えることができる（個人思考・集団思考）
3回目	看護技術を適切に実践する要素	講義	1．看護技術を適切に実践するための要素がわかる 2．看護技術の発展と習得のために（技術と技能）がわかる
4回目	看護技術の基盤としての 安全・安楽・自立/自律	演習	1．看護技術の基盤としての「安全・安楽・自立/自律」について ラウンドロビン・特派員を用いて考えることができる（集団思考）
5回目	看護記録・実習記録（演習記録）の意義 看護記録・実習記録の構成要素 報告の必要性と方法	講義	1．看護記録・実習記録（演習記録）の意義がわかる 2．看護記録・実習記録（体験シート）の構成要素・記載方法がわかる 援助の目的・目標・援助計画（留意点）・実施・評価 3．報告の必要性と方法がわかる
6回目	看護記録（体験シート）の実際	講義	1．実際に記載した看護記録（体験シート）を振り返り、看護記録（体験シート）の構成要素を再確認する
7回目 8回目	共通基本技術と生活援助技術 事例の患者の看護を考える	演習	1．共通基本技術と生活援助技術について考えることができる 2．その人らしい生活を援助することについて考えることができる

＜安全＞

回数	学習内容	方法	学習成果
1回目	医療・看護における安全の意義 看護技術の基盤としての医療安全 －感染予防－	講義	1．医療・看護における安全の意義がわかる 2．感染予防の意義、感染症に関する法律がわかる 3．感染症を成立させる要素と成立過程がわかる 4．標準予防策（スタンダードプリコーション）・感染経路別予防策がわかる
2回目	看護技術の基盤としての医療安全 －感染予防－	講義 技術演習	1．感染症を予防するための看護技術がわかる 2．衛生学的手洗い（洗浄法・擦式法）防護用具（手袋・マスク・エプロン）着脱の理解を深める（専門家グループ）
3回目	看護技術の基盤としての医療安全 －感染予防－	技術演習	1．衛生学的手洗い（洗浄法・擦式法）防護用具（手袋・マスク・エプロン）着脱について説明し、グループ全員が実践できる（ジグソーグループ）
4回目	看護技術の基盤としての医療安全 －感染予防－ 衛生学的手洗い・防護用具着脱のまとめ	技術 チェック	1．衛生学的手洗い（洗浄法・擦式法）ができる 2．衛生学的手洗い、防護用具の着脱の課題を見出す（専門家グループ）
5回目	安全確保の技術 －安全確保の基礎知識－ －安全に関する体験報告書－	講義	1．人間の行動とヒューマンエラーの特性が理解できる 2．事例の分析に取り組むことができる（失敗・事故を構造的に見る） 3．安全に関する体験報告書の意義・記載方法がわかる
6回目	安全確保の技術 －療養環境における危険防止－ －患者の誤認・ライン・チューブトラブル転倒・転落防止－	技術演習	1．看護事故防止のための対策 療養環境に潜む危険を作成することによりハザード知覚を鍛える 患者の誤認、ライン・チューブトラブル、転倒・転落における看護事故防止の視点を理解する
7回目	安全確保の技術 －安全に関する体験報告書－ 基礎看護学実習（後半）後	演習	1．基礎看護学実習（後半）における「安全に関する体験報告書」を共有することにより、危険予測の視野（ハザード知覚）を広げることができる

受講上の注意

個人で課題に取り組み、グループ・クラスで共有していきながら学習をしていきます。
看護師を目指す学生として、主体的に学習に取り組んでください。

評価方法

課題・レポート
筆記試験

使用するeテキスト

基礎看護技術Ⅰ
看護学概論

使用するテキスト

参考となるeテキスト

基礎看護【2】 医療安全

参考文献

『医療におけるヒューマンエラー』河野龍太郎、医学書院、2004.

科目No. 42	配当時期	担当者
科目名　共通基本技術Ⅱ 時間割表記名 共通技Ⅱ　コミュニケーション バイタルサイン	1年次全期 単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	前川　智子 山本　絵奈

科目のねらい

看護におけるコミュニケーション、観察の基礎的知識・技術を学ぶ

授業目標

1．看護におけるコミュニケーションの意義を理解し、コミュニケーション技法を習得する
2．看護における観察の重要性を理解し、バイタルサインの測定技術を習得する

ディプロマ・ポリシーとの関連	
○	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

	回数	学習内容	方法	学習成果	備考・テキスト
コミュニケーション	1回目	人間関係を成立・発展させる為の技術 看護におけるコミュニケーションの意義 効果的なコミュニケーション技術	講義	1．看護学においてコミュニケーションを学ぶ意義がわかる 2．看護場面での効果的なコミュニケーション技術がわかる	
	2回目	人間関係を成立・発展させる為の技術 ロールプレイ	講義	1．ロールプレイを通して、看護師と患者の関係がわかる	
	3回目	人間関係を成立・発展させる為の技術 ロールプレイ	技術演習	1．ロールプレイを通して、傾聴・受容・共感についてわかる	
	4回目	人間関係を成立・発展させる為の技術 模擬患者(SP)との関わり	技術演習	1．模擬患者(SP)との関わりを通して、傾聴・受容・共感についてわかる	
	5回目	人間関係を成立・発展させる為の技術 模擬患者演習	技術演習	1．模擬患者と専門職としてのコミュニケーションを実施できる	
	6回目	人間関係を成立・発展させる為の技術 プロセスレコード	講義	1．プロセスレコードを用いる意義がわかる 2．プロセスレコードの構成要素・記述方法がわかる 3．コミュニケーション過程をプロセスレコードに記述できる	
	7回目	人間関係を成立・発展させる為の技術 模擬患者演習の振り返り チーム医療におけるコミュニケーション	講義	1．自己のコミュニケーション過程を振り返ることができる 2．チーム医療におけるコミュニケーションの重要性がわかる	
バイタルサイン	1回目	看護における観察の意義 バイタルサインの意義 バイタルサインの基礎的知識	講義	1．看護における観察の意義がわかる 2．バイタルサインを観察する意義がわかる 3．バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸、意識）にに関する基礎的知識が確認できる	
	2回目	バイタルサイン測定の方法と根拠	講義 反転授業 技術演習	1．バイタルサインに関する基礎的知識の確認ができる 2．バイタルサイン測定の方法と根拠を深めることができる	小テスト
	3回目	バイタルサイン測定	技術演習	1．バイタルサインが測定できる	
	4回目	体温を調整する技術 冷罨法	講義 技術演習	1．罨法と体温調整の生理学的メカニズムがわかる 2．冷罨法（氷枕）が作成できる	
	5回目	バイタルサイン測定　技術チェック	技術演習	1．バイタルサインが正確に測定できる	
	6回目	バイタルサイン測定　技術試験	技術試験	1．バイタルサインが正確に測定できる 2．自己の測定技術を評価し、課題が明確にできる	
	7・8回目	身体観察の技術 （フィジカルイグザミネーション）	技術演習	1．身体観察の技術（フィジカルイグザミネーションの基本視診・触診・打診・聴診）が理解できる 2．呼吸音・腸蠕動音の音の聴診方法を理解する	

受講上の注意

実習室の使用は「私の技術習得の歩み」を参照してください。
技術の習得に関しては、テキスト学習、演習内容を参考に
各自で空き時間・放課後を使って確実に身につけてください。

評価方法

事前学習・課題
プロセスレコード（コミュニケーション）
技術試験（バイタルサイン測定）
筆記試験

使用するeテキスト

基礎看護技術Ⅰ　／　人間関係論
看護がみえる③フィジカルアセスメント（メディックメディア）

使用するテキスト

参考となるeテキスト

基礎看護【2】
看護学生スタディガイド

参考文献

科目No. 45	配当時期	担当者
科目名　生活援助技術Ⅰ	1年次前期	環境調整　赤毛 智美 活動・休息　横関 智恵
時間割表記名 生活技Ⅰ 環境調整 活動・休息	単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	

科目のねらい

人間の生活における生活行動の意義を理解し、対象者への生活援助の技術を学ぶ

授業目標

1．環境調整の技術を習得する
2．活動・休息の意義を理解し、対象者の自立を促進し、安全・安楽・尊厳を守る技術の基礎を学ぶ
3．人間の日常生活行動の基本動作を獲得する援助技術を学ぶ

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

（環境調整）

回数	学習内容	方法	学習成果
1回目	療養生活の環境	講義 演習	1.療養生活の環境を構成する諸要素が理解できる 2.病室と病床における環境調整の方法が理解できる
2回目	快適な病床環境を整える援助 －基本的なベッドメーキング-	技術演習	1．ベッドメーキングに必要なリネン類の取り扱いが理解できる 2．クローズドベッドの作り方がわかる
3回目	快適な病床環境を整える援助 －基本的なベッドメーキング-	技術演習	1．原理・原則に基づいたベッドメーキングの方法がわかる 2．清潔で、安全・快適で、崩れにくいベッドを作ることができる
4回目	快適な病床環境を整える援助 －基本的なベッドメーキング-	技術試験	1．基本的なベッドメーキングができる
5・6回目	快適な病床環境を整える援助 －ベッド周囲の環境整備－	技術演習	1．事例の患者の療養環境を安全・安楽（快適）・自立を促す視点からアセスメントすることができる 2．安全・安楽（快適）・自立を促す視点から患者の病床環境を整えることができる

（活動・休息）

回数	学習内容	方法	学習成果
1回目	日常の生活行動 人間の日常生活基本動作	講義	日常生活で営む行動について理解できる 日常生活動作について理解できる
2回目	ボディメカニクス 安楽と同一体位	講義 演習	睡眠がもたらす効果を理解できる 同一体位がもたらす影響について考えることができる
3回目	臥床による弊害を防ぐ技術①	講義 技術演習	臥床による効果と弊害を理解できる（体圧測定） ボディメカニクスについて理解できる
4回目	臥床による弊害を防ぐ技術②	講義 技術演習	体位変換を行うことができる（水平移動） 体位変換を行うことができる 左側臥位・右側臥位
5回目	臥床による弊害を防ぐ技術③	講義 技術演習	離床に向けた援助ができる　起き上がり・車椅子移乗
6回目	生活行動拡大への技術①	講義 技術演習	事例から自立を促す援助を考えることができる 自立を促す体位変換、車いす移乗、車いす操作
7回目	生活行動拡大への技術② 輸送・移送の技術	講義 技術演習	歩行障害がある事例の歩行を促す援助を考えることができる ステッキ歩行・松葉づえ歩行・歩行器 ストレッチャーの活用方法及び留意点が理解できる
8回目	技術試験	技術試験	
9回目	休息・睡眠の意義と弊害 まとめ	技術演習	日常生活における活動と休息について考えることができる

受講上の注意

実習室では学校指定のジャージ、ポロシャツを着用して臨むこと。
私語とディスカッションは違います。それを自覚して臨みましょう。
積極的・自立的に技術習得を目指してください。

評価方法

環境調整（技術試験20点、筆記試験20点）
活動・休息（技術試験20点、筆記試験40点）

使用するeテキスト

基礎看護技術Ⅱ

使用するテキスト

参考となるeテキスト

参考文献

科目No. 46	配当時期	担当者
科目名　基礎看護学 生活援助技術Ⅱ 時間割表記名 生活技Ⅱ　食・排泄	1年次後期 単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	食：岡部一栄 排泄：赤毛　智美

科目全体のねらい

人間の生活における生活行動の意義を理解し、対象者への生活援助の技術を学ぶ

授業目標

1．人間の健康にとって食事・排泄の意義が理解できる
2．健康な食事・排泄を行うためのアセスメントの視点が理解できる
3．食や排泄に障害をもつ対象へ必要な生活援助技術が習得できる

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習内容	方法・場所	学習成果	テキスト・備考
1回目	食事の意義 食と栄養の基礎知識 食事を阻害する因子	講義	1．人間にとっての食事の意義が理解できる 2．食と栄養に関するアセスメントの視点がわかる 3．食事を阻害する因子が理解できる	P.29-38
2回目	経口栄養法の援助① 食行動が障害されている対象理解	技術演習 実習室	1．食事摂取の介助が必要な対象を体験する事ができる 2．体験から食事摂取の介助が必要な対象への看護を考える事ができる	課題
3回目	経口栄養法の援助② 食行動が障害されている対象への援助	講義	1．自力では食事摂取動作が行えない対象への援助方法を理解できる	課題
4回目	経口栄養法の援助③ 食行動が障害されている対象への援助	技術演習 実習室	1．経口摂取の援助を実践し評価する事ができる	課題
5回目	経口栄養法の援助③ 咀嚼・嚥下障害のある対象への援助	講義	1．摂食機能障害のある対象への援助方法が理解できる	P.39-51
6回目	経口栄養法が困難な対象への援助 食事、栄養に関する援助方法の種類	講義	1．食事、栄養に関する援助の種類と内容が理解できる	P.51-61
7回目	経管栄養法による援助	技術演習 実習室	1．経鼻胃管栄養法による援助を実施できる	課題
8回目	排泄の意義 排泄におけるアセスメントと阻害する因子 排泄の援助方法・用具の選択	講義	1．人間にとっての排泄の意義が理解できる 2．排泄に関するアセスメントと阻害する因子が理解できる 3．排泄の援助方法・用具の選択の視点が理解できる	P.64-71
9回目	自然な排便・排尿を促す援助① 自然な排便・排尿が困難な対象理解	技術演習 実習室	1．便器・尿器・ポータブルトイレ・オムツの使用方法がわかる	P.71-79 課題
10回目	自然な排便・排尿を促す援助②	技術演習 実習室	1．自然な排便・排尿が困難な対象への援助を実践しを評価する事ができる	課題
11回目	排便障害のある対象への援助①	技術演習 実習室	1．温罨法・腹部マッサージの方法が分かる 2．温罨法・腹部マッサージの方法を実践できる	P.156-168 課題
12回目	排便障害のある対象への援助②	技術演習 実習室	1．浣腸の方法が分かる 2．モデル人形を用いて浣腸が実践できる	P.88-92 課題
13回目	排尿障害のある対象への援助①	技術演習 実習室	1．摘便の方法が分かる 2．モデル人形を用いて摘便が実践できる	課題
14回目	排尿障害のある対象への援助②	技術演習 実習室	1．導尿の目的と方法が分かる 2．膀胱留置カテーテルの目的と方法が分かる	P.79-87 課題
15回目	まとめ	講義	1．食と排泄に関する知識と技術を統合できる	グループワーク

受講上の注意

○実習室での演習時は指定されたトレーニングウェアで行います
身だしなみを整えて入室してください。
○演習での体験を通して学習していきます。演習の際は事前学習をして臨みましょう。

評価方法

課題点　40点
（課題点は演習出席が必要です）
筆記試験　60点

使用するeテキスト

基礎看護技術Ⅱ

参考となるeテキスト

看護学生スタディガイド

科目No.47	配当時期	担当者
科目名　生活援助技術Ⅲ	1年次後期	堺　真奈美（1～6回、12回～15回） 池田　恵（7～11回）
時間割表記名　生活技Ⅲ　清潔・衣生活	単位数　1単位 時間数　30時間（15回）	

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

科目のねらい

人間の生活における清潔の意義を理解し、清潔援助の基本となる知識・技術・態度を学ぶ

授業目標

1．人間の生活における清潔・衣生活の意義を理解する
2．清潔援助の基本となる技術を習得する
3．清潔・衣生活の援助におけるアセメントの視点を理解する
4．援助における自己の課題を明確にし、看護を実践する者としての姿勢を培う

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習内容	方法	学習成果	備考
1回目	清潔の意義 皮膚・粘膜の生理的メカニズムとケア	講義	1．清潔の意義がわかる 2．入浴（シャワー浴含む）と生体の反応、摩擦・マッサージと生体の反応、洗浄剤と皮膚の反応がわかる	課題①皮膚・粘膜の解剖生理
2回目	部分清拭1)2) 洗髪、足浴	講義 協働学習 （一部実習室）	1．洗髪、足浴を看護師が行う意義と援助の意義がわかる 2．洗髪、足浴の援助に必要な物品がわかる 3．洗髪、足浴の援助計画を立案できる	課題②③体験シート
3・4回目	部分清拭1)2) 洗髪、足浴	技術演習 （実習室）	1．洗髪、足浴の基本となる手技を実施し（学生間）、評価できる 2．洗髪、足浴の援助方法の原理原則がわかる 3．洗髪、足浴が対象に及ぼす影響を理解できる	
5回目	部分清拭3) 手浴	技術演習 （実習室）	1．手浴の基本的な技術を実施し（学生間）振り返ることができる 2．手浴の援助方法の原理原則がわかる 3．手浴を看護師が行う意義を理解できる	課題④体験シート
6回目	部分清拭4) 口腔ケア 整容（髭剃り・鼻の清潔）	技術演習 （実習室）	1．口腔ケアの基本となる手技を実施し（学生間）、評価できる 2．口腔ケアを看護師が行う意義を理解できる 3．口腔ケアの援助を評価する視点がわかる	課題⑤-1 口腔内の解剖整理 課題⑤-2 体験シート
7回目	病衣交換〈衣生活〉	講義 技術演習 （実習室）	1．臥床患者の寝衣交換を実施できる 2．対象の衣生活を支える看護の意義を理解できる 3．対象の衣生活を支える看護の意義を理解できる	
8・9回目	全身清拭・病衣交換	一部デモスト 技術演習 （実習室）	1．全身清拭の目的と方法の原理原則がわかる 2．全身清拭に必要な準備ができる 3．湯音の調節と拭く手技を習得できる	課題⑥体験シート
10・11回目	全身清拭・病衣交換	技術演習 （実習室）	1．全身清拭・病衣交換を一連の流れで実施することができる（熱布浴） 2．看護者としてコミュニケーションを図りながら実施できる 3．全身清拭の援助におけるアセスメントの視点がわかる	
12回目	部分清拭5) 陰部洗浄	デモスト 技術演習 （実習室）	1．陰部洗浄の基本となる手技を実施し（モデル人形）、評価できる 2．陰部洗浄の援助方法の原理原則がわかる 3．最も羞恥心を伴う部位の援助における看護師の態度について考えられる 4．陰部の清潔を保つ意義がわかる	生活技Ⅱと関連 課題⑦-1 陰部の解剖生理 課題⑦-2 体験シート
13回目	〈技術チェック〉 陰部洗浄	技術チェック （実習室）	1．陰部洗浄の技術について自己の課題を明確にできる	
14・15回目	まとめ	講義	1．事例の対象に応じた清拭の援助計画を立案する 2．事例の対象に応じた清拭を実践し、振り返ることができる	課題⑧

受講上の注意

実習室の使用については、『私の技術習得の歩み』を参照すること。
演習の準備…指示に沿って学生主体で始業までに行うこと。
技術の習得について…テキスト学習・デモストレーションを参考に、各自空き時間や放課後を使って確実に身につけてください。

評価方法

課題①～⑧の提出点・・・30点（3点×10）
技術チェック点・・・20点
筆記試験・・・50点

使用するeテキスト

基礎看護技術Ⅱ

使用するテキスト

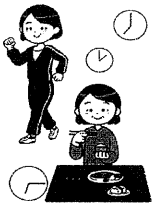
参考となるeテキスト

看護学生スタディガイド

参考文献

看護覚え書（現代社）

科目No. 50	配当時期	担当者
科目名　地域・在宅看護概論Ⅰ	1年次全期	池田　恵
時間割表記名 地域・在宅看護概論Ⅰ	単位数 1単位	
	時間数 30時間（15回）	



科目のねらい

地域で暮らす人々と、家族について理解し、人々の暮らしと暮らしを支えるシステムや環境について学ぶ

授業目標

・地域で暮らす人々と看護の対象について理解する
・人々の暮らしについて理解する
・暮らしを支える社会資源について理解する
・看護が提供される多様な場について理解する

ディプロマポリシーとの関連	
○	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回	学習内容		備考
1	地域で暮らす人々	自分の生活や他者の生活について考え、地域で暮らす人々を知る	講義・GW
2			講義・GW
3	暮らし	人々が暮らすために行っていることは何なのかについて考える	講義・GW
4	社会資源	暮らしを支える社会資源について考える 地域包括ケアシステムについて考える	講義・GW
5			講義・GW
6	フィールドワークへのオリエンテーションと事前学習	フィールドワークの目的・目標が理解できる フィールドワークへの事前学習ができる	
7			
8	フィールドワーク	地域で暮らす人々を知る	
9			
10	看護の対象	看護の対象がどのような人々なのか見出せる	講義・GW
11	看護が提供される多様な場	看護が提供される多様な場について理解する	講義・GW
12	フィールドワーク後の課題	フィールドワークの学びを振り返り	GW
13	まとめのワーク（発表会）	フィールドワークの学びを共有することができる	発表会
14			
15	地域社会	地域のしくみや、人々の関係性について考える	講義・GW

受講上の注意

看護の対象である生活者とその人々の暮らしを理解する科目です。
グループワーク、課題が中心になります。積極的に学習しましょう。
フィールドワークでは、目標を持って参加しましょう。

評価方法

課題
レポート
出席点

使用するeテキスト

地域・在宅看護の基盤
基礎からわかる地域・在宅看護論

使用するテキスト

参考となるeテキスト

地域・在宅看護の実践
看護学生スタディガイド

参考文献

ナーシング・グラフィカ　地域療養を支えるケア（メディカ出版）

科目No. 56	配当時期	担当者
科目名　健康回復支援総論	1年次後期	石束　佳子
時間割表記名　健康回復支援総論	単位数 1単位	
	時間数 30時間(15回)	

科目のねらい

健康障害を持つ対象者を理解し、状態に応じて看護を提供する能力を培う

授業目標

1．健康障害をもつ人の経過別看護、主要症状別看護、治療処置別看護の考え方が理解できる

2．疾病理解の看護学的視点での学習成果を踏まえ、scenarioの看護を考えることができる

	ディプロマ・ポリシーとの関連
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習内容	学習成果	備考
1回	科目ガイダンス 患者心理 病期の特徴と看護の役割	健康障害を持つ人の基本的な看護の考え方が理解できる。 患者心理が理解できる。 病期判断と病期の特徴に応じた看護の役割が理解できる。	講義 演習 ワークシート
2回	急性期の看護 急性期とは、急性期の特徴 急性期の看護がめざすもの	急性期にある患者の特徴を理解し、病期に応じた看護が理解できる。 事例を通して、急性期にある患者の看護を考えることができる。	講義 演習 ワークシート
3回	回復期・慢性期の看護 回復期・慢性期の特徴 回復期・慢性期の看護がめざすもの	回復期・慢性期にある患者の特徴を理解し、病期に応じた看護が理解できる。 事例を通して、回復期・慢性期にある患者の看護を考えることができる。	講義 演習 ワークシート
4回	症状別看護① 黄疸のある患者の看護	黄疸のメカニズムを理解し、黄疸のある患者の看護を創造する。	講義 演習 ワークシート
5回	症状別看護② 浮腫のある患者の看護	浮腫のメカニズムを理解し、浮腫のある患者の看護を創造する。	講義 演習 ワークシート
6回	主な治療法① 安静療法	安静療法の意義と方法を理解する。	講義 演習 ワークシート
7回	主な治療法② 薬物療法	薬物療法の意義と方法を理解する。	講義 演習 ワークシート
8～13回	シナリオの看護を考える PBL(問題基盤型)学習	チーム毎にシナリオを理解し、経過別看護・治療別看護・症状別看護・個別性の看護を統合して、根拠に基づいた看護を創造する。	小テスト 課題 グループワーク
14回 15回	学習内容発表	チームの発表・討議を経て、クラスで、シナリオの看護について発表する。	課題

受講上の注意

「疾病理解の看護学的視点」の授業で学習した病態関連図を基にしてシナリオの看護を考えます。しっかり復習をしておいてください。
小テストについては、事前にお知らせします。
課題は必ず提出し、欠席しないように頑張ってください。

評価方法

筆記試験
PBL（小テスト・課題・発表）
完全出席　5点

使用するeテキスト

看護学生スタディガイド

使用するテキスト

参考となるeテキスト

臨床看護総論
病態生理学

参考文献

科目No. 77	配当時期	担当者
科目名　精神看護学概論 時間割表記名　精神看護学概論	1年次後期 単位数　1単位 時間数　30時間（15回）	前川 智子・石束 佳子 田中 雅子・光岡 由紀子 川西 康之

科目のねらい

精神保健・看護の基本と精神を取り巻く現状について理解を深める

授業目標

1．精神看護学における主要概念
（人間観・健康観・環境観・看護観）について理解できる
2．感性・リラクセーションを通して、自己の心の健康を考えることができる
3．精神医療・精神看護の歴史、精神保健福祉に関わる法律について理解できる

ディプロマ・ポリシーとの関連	
○	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

担当	回数	学習内容	方法	学習成果	課題・小テスト
石束・前川	1・2回目（2コマ続き）	精神看護導入	映画鑑賞 講義	精神看護学とはどのような学問なのかが分かる 精神看護学の主要概念についてわかる	レポート
石束	3回目	心の構造・機能・発達	講義	マーガレット・マーラーの発達論	
田中	4回目	精神保健・医療・福祉の歴史	講義	精神障害者の人権について考えることができる	レポート
	5回目	精神保健福祉法	講義	精神保健福祉法の目的・対象・入院形態・行動制限が理解できる	
	6回目	精神保健福祉法	講義	法制度の目的・概要について理解できる	
光岡	7回目 8回目	リエゾン看護	講義	リエゾン精神看護専門看護師の活動の実際についてわかる	レポート
川西	9回目	精神の健康 精神を病むとは	講義	統合失調症の精神病理がわかる 統合失調症の主な症状がわかる	
	10回目		講義	気分障害の分類と精神病理がわかる 統合失調症と気分障害の治療がわかる	
	11回目		講義	神経症性障害の分類がわかる 神経症性障害の症例と治療がわかる	
	12回目		講義	代表的な精神作用物質がわかる アルコール症の症状がわかる	
	13回目	ストレッサー・ストレス反応・ストレス対処	講義	ストレッサー、ストレス反応、ストレス対処がわかる	レポート
前川	14回目	感性の体験・発表	事前課題 学内演習	自己の感性を培うことができる。 自己の感性について発表し、共有できる	レポート
	15回目	リラクセーション	体験	リラクセーションの1つである呼吸法を体験できる	レポート

受講上の注意

評価方法

筆記試験（石束10点・川西30点）
レポート（前川・石束・光岡・川西　各10点
田中20点）

使用するeテキスト

精神看護の基礎

使用するテキスト

参考となるeテキスト

精神看護の展開

参考文献

解剖見学オリエンテーション

ねらい　身体の構造についての知識を深め、看護の対象を理解するために役立てる。

①各臓器の形態と位置関係が理解できる。

②各臓器の構造と機能の関連について理解を深めることができる。

1．見学時期　　８月下旬

2．見学施設　　京都府立医科大学　解剖学教室　生体構造科学部門

【住所】京都市上京区河原町通り広小路上ル梶井町４６５　【TEL】　０７５－２５１－５３０１

3．学生の集合場所　　京都府立医科大学　河原町キャンパス 正門前

守衛館前にある広場で週番が名簿を持参し、集合時間までにチェックする。

4．参加　　１年次生全員（必ず出席すること）　　引率教員（２名予定）

5．用意するもの　　ナースシューズ、筆記用具、メモ、解剖学教科書

＊ディスポエプロン、マスク、手袋は当日配布する。

6．解剖見学の流れ　　①学生集合：大学正門前の中庭に集合（開始時間の 10 分前）

②教室移動：解剖見学のオリエンテーション

マスク・ディスポエプロンを着用し、筆記用具を持って待機

③グループ毎に移動：２０人１グループ（学籍番号の前半･後半）

前半グループ　　標本室見学　→　解剖室見学

後半グループ　　解剖室見学　→　標本室見学

④振り返り・質問：教室に戻って実施　　⑤解散

7．注意事項　　①献体に対して敬虔な気持ちと態度をとること

☆解剖見学にふさわしい服装、身だしなみで臨む

②見学実習開始前及び終了時には、全員で１分間の黙祷を行うこと

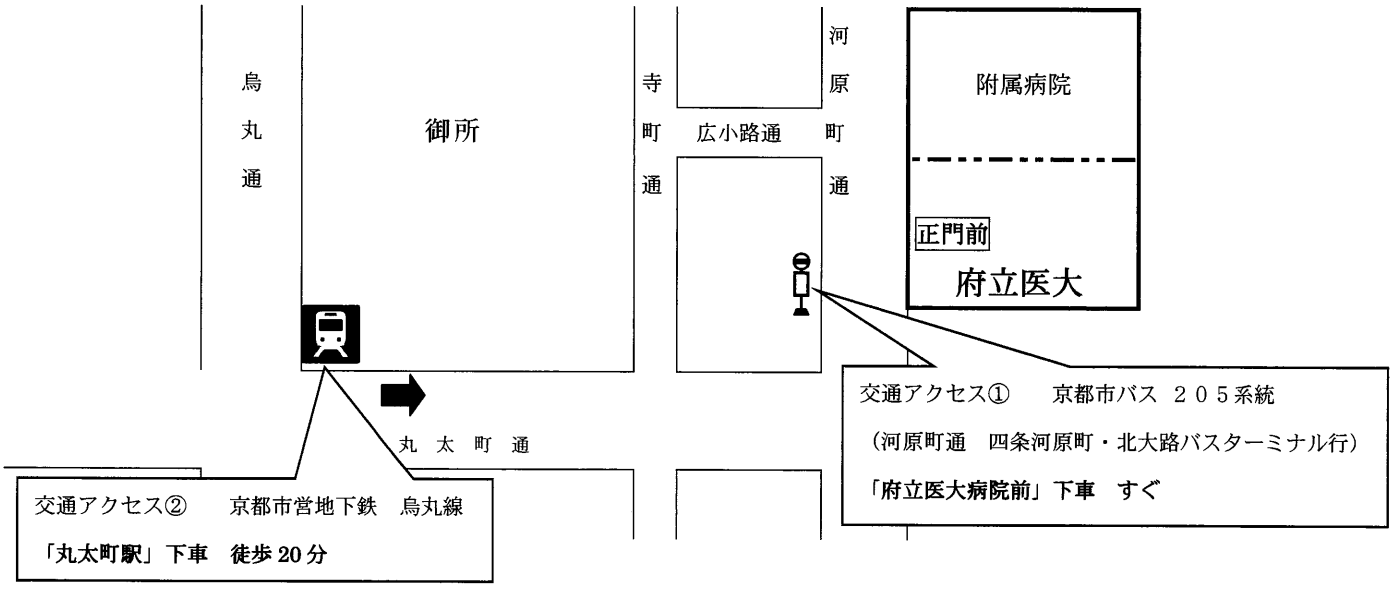
③見学・移動中は私語を慎む、団体行動なので機敏に行動すること

④質問は積極的に行うこと

8．解剖見学後の課題　　**レポート提出**

テーマ（表題）　「解剖見学で学んだこと、考えたこと」

枚数　　A4 白紙　40 字×40 行（横書き）１枚程度　大学校指定の表紙を付ける

提出場所　　事務所前レポートボックス（提出期限は、オリエンテーション時に指定する）

9．略図